

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300032		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム柚子養老 (西ユニット)		
所在地	岐阜県養老郡養老町船附字大割田1421		
自己評価作成日	平成25年1月19日	評価結果市町村受理日	平成25年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成25年2月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境の中、明るく広いスペースでのんびり穏やかに、生活して頂けるように心がけフロアには、大きいソファと畳の部屋があり、自宅の居間でくつろいでいるような感じで過ごして頂いています。ボランティアの受け入れも多く、同施設内のショートやデイの利用者様との交流をもって頂くこともできます。また外出も個々に合わせて行っています。医療の方面では、24時間体制で連絡が取れるようにしてあり、安心して生活が出来るように努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1年前に開業した新築のホームの周辺は自然豊かな環境で田畑や木材市場があり、民家が点在する地域である。建物内は広く、大きな窓からは自然光が差し込み、開放感ある生活空間となっている。一人ひとりの利用者の人格を尊重し、その人らしい暮らしができるよう職員教育がなされており、常に笑顔で明るい職員の対応で、利用者は穏やかで安心できる生活を日々過ごしている。少しでも早く地域の一員として地域に根ざしたホームとなれるよう、運営推進会議に地域役員や利用者家族に参加してもらい、グループホームへの理解と協力を得る取り組みを行っている。同施設内のショートステイやデイサービスの利用者との交流もあり、月1回の外出行事や、地域との連携、家族との協力、ボランティアの受け入れなども盛んで、関係者の協力体制のもとホームを運営している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス時に理念についての再確認を行い職員全員がしっかり把握し共有できるようにしている。	法人の理念「安心な老後、環境、介護」を基に、地域密着型サービスの意義について再確認している。理念をホーム内に掲示し、全職員で共有し、統一した方向性を持って日々のケアサービスの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住民の一員として自治会費を納め、周辺地域の清掃を行ったり、地域内にある保育園の運動会に参加したりして交流している。	地域行事に参加するとともに、ホームの行事を自治会を通して地域に発信するなど積極的に地域と交流する取り組みがなされている。保育園児やボランティアの訪問も多い。地域で認知症講座を開くなどの交流もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談会の実施や情報誌を発行し介護保険制度についてのミニ知識などを伝えたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し利用者にも参加してもらい、活動報告以外に利用者の意見や民生委員の方、地域包括の方からの意見も聞いてサービス向上に生かしている。	運営推進会議では地域の役員や家族の参加のもと活動状況や課題について報告し、意見交換を行っている。課題や意見は職員会議で共有し、ホームの運営に反映させている。	医療の観点からの意見を取り入れ、ケアサービスの向上を図るため、医療職種の参加にも期待する。また防災関係者の参加も含め多様な意見を得ながら更なる会議の活性化に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの方に来て頂き、意見を聞いたり情報を伝えたりしている。	地域包括支援センター担当者にホームの日頃の諸活動を報告し、理解を得ている。相談や助言を仰ぎ、共に連携してサービスの質向上に取り組んでいる。最近では肺炎球菌予防接種の助言があり迅速に対応できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの意識を持ち勉強会を行ったりし、ベッドからの転倒の危険性のある方に対し巡視をこまめに行い、帰宅願望のある方には気分転換に散歩に行ったりして行動を抑制しないようにしている。	身体拘束についての学習会が持たれ、正しい知識の習得が図られている。転倒事故を防ぐため、こまめな巡視を行い、徘徊される利用者には散歩に同行する等の実践をしている。現在拘束を行ってはいないが、身体拘束廃止委員会を設置し、内部指針を明確にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行って職員同士で話し合っている。言葉使いに気を付け人格を傷つけるような言葉使いをしないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している利用者がおり、職員に説明し理解できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせの時点でも簡単な説明を行い、契約時には時間をとりしっかり説明し理解と納得をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様声情報の聞き取りや投書箱を置きあらゆる方面より意見を聞くようにしている。	職員は家族来訪時、声かけし、話しやすい雰囲気作りに努めている。「お客様声情報」の記録用紙で要望を伺う体制をとっている。意見は職員で共有し、日常のケアに反映させ、家族には運営会議や便りでフィードバックしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス時に意見を聞き職員間で話し合い業務に反映している	朝夕の申し送りや、申し送りノートで職員が自由に意見や提案ができる体制をとっている。職員のアイデア(ベッドサイドのL字バー設置など)は、迅速に業務に反映され、サービス向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談時に日々の努力を評価したり、意見や提案の優れたものに対しても評価、業務に生かす等している。資格取得の為に研修を開き支援、資格取得時は手当を出すなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は出勤扱いとし研修後報告書を提出、施設内の研修で発表するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを訪問し活動内容やケアプラン等について意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所内にあるショート利用から始めてもらったり、お試し入所で慣れて頂くようなこともしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族の希望やこれまでの生活スタイル等をしっかり聞き、入所後も家族との連絡を密にとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談があった際本人にとって必要なサービスを見極め、必要に応じ他の事業所の紹介やサービスの利用を含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者と職員、又は利用者同士が協力し合い、一緒に何かを行うことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを出し、生活状況を伝えたり、電話で連絡をとり話をしたりして、常に情報交換し協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのスーパーで買い物をしたり、近くの喫茶店に出かけたり、ボランティアで知人の方に来て頂き交流をもったりしている。地域の行事への参加もしている。	本人、家族から入居前の情報を収集し、職員で共有している。家族の協力のもと馴染みの店等へ外出したり、デイサービスに来ている馴染みの方と会う機会を設けている。地域の美術展に利用者の作品を出展している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両フロアを行き来してもらえようとし、仲間作りをしたり、気の合う方同志と一緒に郊外レクへの参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後入院中も経過を気にかけ、病室を訪ねたり家族にも声をかけたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛けやコミュニケーションを図っていく中で、本人の思いや暮らし方の希望を把握するようにしている。表情や動作の変化を見逃さず思いを読み取る努力をしている。	利用者との会話や日常場面での表情や仕草などから得た職員の気づきを話し合い、意向把握に努めている。利用者主体の視点を常に意識し、一人ひとりの全体像を掘り下げ、スタッフで連携しながら本人のペースや希望に添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族の方から今までの生活歴を聞き日々の生活の中で昔のことなど話題にしようという生活をしてきたかを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りの際に一人ずつの状態や1日どう過ごされたかの確認をし職員全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に全員でケアプランの見直しを行い、意見を出し合っている。また家族の面会時に要望や意見を聞くようにしている。	家族来訪時に意見を聞き、希望や意向を反映した介護計画を作成している。本人家族の意向や医療面も総合し、具体的に計画を作成している。毎月の会議で状況を確認し、常に変化を捉え、現状に即した計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に1日の生活の様子を記録、特記事項も個々にわかるように記録を残し、介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	早朝の受診に行かれる際は、朝食を個別に用意をさせてもらったり、夕方受診に行かれる際は、夕食の時間をずらしたりと、個々の状況に応じ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方より、意見や情報を教えてもらったり、地域の方にボランティアに来て頂いたりして協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の方の協力のもとかかりつけ医に受診の際に、情報を提供したり、必要に応じ付き添いや家族に同行し、直接医師より話を聞いたりしている。	かかりつけ医に受診する際は、施設側より書面で情報提供を行い、診察で得た情報は職員間で共有している。必要がある場合は、利用者に同行して、直接医師より情報を得てケアに反映させている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診以外に、看護師により健康チェックをしてもらったり、電話での相談にも対応してもらうようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関への情報提供をしたり、病院の相談員との連絡を取り合ったり、家族の方との情報交換も行い、早期退院の支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべての情報を十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や家族と話し合いをし、今後どうしていくかを検討。事業所で出来ることを、十分に説明したうえで本人、家族の意向を聞き対応している。なお、職員に看護資格者を配置している。	入居時に重度化や終末期の方針について家族と概ね検討がなされている。状況が変化した場合、段階に応じて、家族や医療関係者と話し合いを重ねながら支援している。	重度化や終末期の方針についてホームが対応できるケアについて文書を渡して説明し、同意を得る一連のプロセスが確立されるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練時にはもちろん、消防署による救急救命講習に参加している。緊急時の対応についてマニュアルを作成し、職員全員対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い地域の方にも参加してもらい協力を得るようにしている。災害対策用(浄水器、発電機、ボート)を配置している。	各部屋にスプリンクラーが設置されている。災害マニュアルを作成し、年2回、消防署の立会いで昼夜想定避難訓練を実施している。	災害対策用(浄水器、発電機、ボート)の設備は充実している。さらに非常用食料・備品(毛布など)を準備する等、非常時の体制確立に向けての取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重する声掛けを行い、押さえつけるケアをするのではなく、ご自身の意思を尊重して対応している。	買い物に出かけた時、本人に商品を選んでいただくようにする、洗濯物は先に洗ってしまうのではなく「どうしましょう」と尋ねる等、本人の意思を尊重するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時の飲み物や外出時の食事のメニューなども、個々に好きなものを選んでもらったり、意思表示が困難な方には、写真や現物を見てもらい、選んでもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるも、食事の時間を希望に合わせてもらったり、入浴も曜日は決めてあるも、本人に合わせて変更したりして、希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にスーツを着て出かけられる方もあり、更衣の介助をしたり、好みの洋服を着て頂けるように支援、理髪時は染めやパーマの希望も聞き対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事以外に誕生会やおやつレク等でホットプレートを利用し、一緒におやつを作ったり、家族や地域の方から頂いた食材で調理したものを提供したりしている。	管理栄養士によってカロリー計算や塩分量を考慮した献立表が作成されている。茶わんや箸は利用者が家で使っていたものを使用している。季節に合わせた行事食や外食の機会もある。	メニューを施設内に掲示したり、家族に渡したりすることで本人の楽しみや家族の安心につながるのではないかと期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夜間お茶を希望される方には、好きな時に飲めるようにペットボトル等に入れ提供。個人的にヨーグルトや納豆を毎朝希望される方がある為、準備し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアの実施と夜間義歯の消毒を毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットの使用からリハビリパンツのみ、そして布パンツへと移行できるように支援。訴えの無い方も定期的トイレ誘導をすることで失禁を少なくし、トイレで排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表を活用し、排泄のリズムを把握したことにより、オムツから布パンツの利用に変わった利用者がある。一人ひとりの排泄パターンの把握がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し排便コントロールを行っている。漢方のお茶を提供したり水分補給も多くとるようにしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個室浴に加え希望により温泉気分の大浴場の利用をして頂いているが、入浴前に本人に確認し入りたくない日は日にちをずらしたり、拒否の多い方には柚子風呂やゆっくり入れるように順番を工夫している。	外出した後や、体調の変化がある時など、臨機応変な対応がされている。入浴は二人の職員で対応し、安全に配慮している。原則、入浴日は月、火、木、金曜日の週4日であるが、土・日曜日の利用もできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく休まれるため、使い慣れた寝具を使用し、日中メリハリが出来るようにレク、体操の参加を呼びかけたり、体調管理をし安眠、休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時や受診時に個々の情報を伝えることで、必要な薬を処方してもらい、服薬ファイルにて職員が内容を確認し服薬介助後のチェックもしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品作りや作業の役割を決めて行ったり、気分転換に散歩やドライブ、喫茶店へ出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外泊される方も多くあり、その他買い物や喫茶店、郊外レクで外食、道の駅、ショッピングモールに出かけることもある。	外出希望調査を行い、月1回の外出行事や外食レクリエーションを企画し、家族やボランティアの協力で、花見や花祭りなど積極的に外出支援を行っている。家族同行で喫茶店や買い物に出かけられるように支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小口資金として預かり管理しているが、外出時には個々に支払いをしてもらったり、家族、本人の希望により所持している方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もあり、自由に家族や知人と連絡を取ってもらっている。また、電話をかけて欲しいと言われる方もあり、家族に確認の上電話をかけられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出レクや行事の写真を掲示したり、利用者と一緒に作った作品、季節感が感じられるようなものを展示することで工夫している。	廊下は広く、自由に歩行、車椅子移動やレクリエーション活動ができる空間となっている。畳の共有スペースもあり、利用者にくつろぎの場を提供している。行事写真や作品が掲示されていることで部屋全体に季節感が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のフロアには畳の間もあり、そこで横になり過ごしたり、ソファでテレビを見たりされる方もある。またフロアを行き来し過ごされる方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた寝具や家具を持ってきてもらったり、使い慣れたものの中で生活することで居心地の良さを配慮している。	車椅子でも十分な広さの居室であり、馴染みの家具等が置かれている。日用雑貨は箆笥に収納されている。利用者の愛用の品があったり、写真が貼られていたりする等、居心地の良さが感じ取れた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が持っているできることを日常生活の中で発揮でき安全で安心できる環境作りに心がけ、自立支援に向けての取り組みをしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300032		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム柚子養老 (東ユニット)		
所在地	岐阜県養老郡養老町船附字大割田1421		
自己評価作成日	平成25年1月19日	評価結果市町村受理日	平成25年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成25年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス時に理念についての再確認を行い職員全員がしっかり把握し共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住民の一員として自治会費を納め、周辺地域の清掃を行ったり、地域内にある保育園の運動会に参加したりして交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談会の実施や情報誌を発行し介護保険制度についてのミニ知識などを伝えたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し利用者にも参加してもらい、活動報告以外に利用者の意見や民生委員の方、地域包括の方からの意見も聞いてサービス向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの方に来て頂き、意見を聞いたり情報を伝えたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの意識を持ち勉強会を行ったりし、ベッドからの転倒の危険性のある方に対し巡視をこまめに行い、帰宅願望のある方には気分転換に散歩に行ったりして行動を抑制しないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行って職員同士で話し合っている。言葉使いに気を付け人格を傷つけるような言葉使いをしないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している利用者があり、職員に説明し理解できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせの時点でも簡単な説明を行い、契約時には時間をとりしっかり説明し理解と納得をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様声情報の聞き取りや投書箱を置きあらゆる方面より意見を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス時に意見を聞き職員間で話し合い業務に反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談時に日々の努力を評価したり、意見や提案の優れたものに対しても評価、業務に生かす等している。資格取得の為に研修を開き支援、資格取得時は手当を出すなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は出勤扱いとし研修後報告書を提出、施設内の研修で発表するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを訪問し活動内容やケアプラン等について意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所内にあるショート利用から始めてもらったり、お試し入所で慣れて頂くようなこともしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族の希望やこれまでの生活スタイル等をしっかり聞き、入所後も家族との連絡を密にとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談があった際本人にとって必要なサービスを見極め、必要に応じ他の事業所の紹介やサービスの利用を含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、役割を持ち家事や作業を手伝ってもらったり、年長者として子育てのことなど教えてもらったりすることで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを出し、生活状況を伝えたり、電話で連絡をとり話をしたりして、常に情報交換し協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのスーパーで買い物をしたり、近くの喫茶店に出かけたり、ボランティアで知人の方に来て頂き交流をもったりしている。地域の行事への参加もしている。利用者で制作した作品の展示会にも出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両フロアを行き来してもらえようとし、仲間作りをしたり、気の合う方同志と一緒に郊外レクへの参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後入院中も経過を気にかけて、病室を訪ねたり家族にも声をかけたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛けやコミュニケーションを図っていく中で、本人の思いや暮らし方の希望を把握するようにしている。表情や動作の変化を見逃さず思いを読み取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族の方から今までの生活歴を聞き日々の生活の中で昔のことなど話題にしどういう生活をしてきたかを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りの際に一人ずつの状態や1日どう過ごされたかの確認をし職員全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に全員でケアプランの見直しを行い、意見を出し合っている。また家族の面会時に要望や意見を聞くようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に1日の生活の様子を記録、特記事項も個々にわかるように記録を残し、介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	早朝の受診に行かれる際は、朝食を個別に用意をさせてもらったり、夕方受診に行かれる際は、夕食の時間をずらしたりと、個々の状況に応じ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方より、意見や情報を教えてもらったり、地域の方にボランティアに来て頂いたりして協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の方の協力のもとかかりつけ医に受診の際に、情報を提供したり、必要に応じ付き添いや家族に同行し、直接医師より話を聞いたりしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診以外に、看護師により健康チェックをしてもらったり、電話での相談にも対応してもらうようになっている。なお、職員に看護資格者を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関への情報提供をしたり、病院の相談員との連絡を取り合ったり、家族の方との情報交換も行い、早期退院の支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や家族と話し合いをし、今後どうしていくかを検討。事業所で出来ることを、十分に説明したうえで本人、家族の意向を聞き対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練時にはもちろん、消防署による救急救命講習に参加している。緊急時の対応についてマニュアルを作成し、職員全員対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い地域の方にも参加してもらい協力を得るようにしている。災害対策用具(浄水器、発電機、ボート)を配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重する声掛けを行い、押さえつけるケアをするのではなく、ご自身の意思決定を尊重して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の希望や思いを聞き、自己決定できるように支援、又、難聴の方もみえ、ホワイトボードでの筆談をするなどして、意思表示できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるも、食事の時間を希望に合わせずしたり、入浴日の変更をしたりして一人一人のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の洋服を本人に選んでもらったり、日々の更衣の際も本人の意向を聞きながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事以外に誕生会やおやつレク等でホットプレートを利用し、一緒におやつを作ったり、家族や地域の方から頂いた食材で調理したものを提供したりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量のチェックを行い、必要な栄養、水分が摂れているかを把握する。また、好きなもの、苦手なものを知り嗜好に合わせて、食事形態を考える等の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアの実施と夜間義歯の消毒を毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意が曖昧な方、夜間おむつ使用している方も、日中はリハビリパンツを使用トイレ誘導することで、トイレでの排泄が続けて行けるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し排便コントロールを行っている。漢方のお茶を提供したり水分補給も多くとるようにしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個室浴に加え希望により温泉気分の大浴場の利用をして頂いているが、入浴拒否の方には、声をかけるタイミングや、入浴時間を職員で話し合い、スムーズに入浴して頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく休まれるため、使い慣れた寝具を使用し、日中メリハリが出来るようにレク、体操の参加を呼びかけたり、体調管理をし安眠、休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬が変更になっても職員全員が把握できるように申し送りノートに記録したり、服薬ファイルにて確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品作りや作業の役割を決めて行ったり、気分転換に散歩やドライブ、喫茶店へ出かけたりしている。得意分野を生かした仕事をしてもらうことで張り合いがもて感謝の言葉を伝えることで喜びを持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に外出される方以外にも車椅子の方も一緒に外出できるように、職員の配置を行い、みんなで食事に行ったり、買い物に行ったりできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小口資金として預かり管理しているが、外出時には個々に支払いをしてもらったり、家族、本人の希望により所持して見える方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もあり、自由に家族や知人と連絡を取ってもらっている。また、電話をかけて欲しいと言われる方もあり、家族に確認の上電話をかけられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出レクや行事の写真を掲示したり、利用者と一緒に作った作品、季節感が感じられるようなものを展示することで工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のフロアには畳の間もあり、そこで横になり過ごしたり、ソファでテレビを見たりされる方もある。またフロアを行き来し過ごされる方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた寝具や家具を持ってきてもらったり、使い慣れたものの中で生活することで居心地の良さを配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が持っているできることを日常生活の中で発揮でき安全で安心できる環境作りに心がけ、自立支援に向けて工夫している。		